

那賀川総合土砂管理技術検討会

設立趣旨

那賀川流域では、地形的、地質的な特徴と日本でも有数の多雨・豪雨地帯であることが相まっての活発な土砂生産、大量の土砂流入に伴うダム貯水池の堆砂進行、ダム下流の土砂供給不足による河道地形や環境の変化、海岸侵食など土砂移動に係る様々な問題が顕在化しつつある。

これまで、このような問題への対応は、土砂移動現象が長期的・広域的であることからその影響を捉えにくいこともあり、各領域の流砂系・漂砂系に関係する管理者が個別に対応してきたのが実情であるが、個別の対応では限界があることから各管理者が連携を図りつつ、山地から海岸まで一環した総合的な土砂管理の取り組みの必要性が認識されてきた。

そこで、那賀川流砂系・漂砂系の問題改善に向けた関係機関の一層の連携強化を図るため、平成28年2月26日に総合土砂管理計画の具体的な目標の設定、各管理者が実施すべき対策の決定、総合土砂管理の実現に向けたモニタリング計画の策定を目的として、関係する管理者や自治体などで構成する「那賀川総合土砂管理検討協議会（以下：協議会）」が設置された。

しかしながら、土砂移動現象の把握等、その問題対応には、今日においては技術的課題が多く管理者を中心とした協議会の議論だけでは、その現象を正確に捉えて具体的な方策の検討を行うことが難しい。そのため協議会に対し、土砂生産域から海岸域までの技術的見地からの総合的な土砂管理のあり方について、学識者・専門家より助言を得ることを目的に、「那賀川総合土砂管理技術検討会」を設置するものである。